



JTA、ボーイング737-800型機の導入方針を決定

2014年3月27日
第13117号

日本トランスオーシャン航空(JTA、本社 那覇市、社長 佐藤 学)は、3月25日開催の取締役会において、新機材としてボーイング737-800型機12機の導入方針を決定いたしました。今後、ボーイング社との正式購入契約締結に向け、準備を進めてまいります。

現在、JTAでは、ボーイング737-400型機を運航しており、ボーイング737-800型機はその後継機として、2016年1月頃に初号機を受領する予定です。

JTAは、ボーイング737-800型機の導入により、お客さまへより快適な機内空間をご提供するとともに、沖縄を拠点とする航空会社「うちの翼」として、お客さまに最高のサービスを提供してまいります。





ボーイング・スカイ・インテリア（イメージ図）

【参考】737-800型機 諸元（737-400型機との対比）

	737-800型機	737-400型機
全長	39.5m	36.4m
全幅	35.8m	28.9m
全高	12.5m	11.1m
巡航速度(マッハ)	0.78	0.74
座席数	165席程度(予定)	145席、または150席
航続距離(参考値)	約4,500km	約3,300km
エンジンタイプ	CFMI社製CFM 56-7BE	CFMI社製CFM 56-3C-1

※CFMI：GE（ゼネラル・エレクトリック）社とSNECMA社との合弁会社

以上